

# イスラエル巡礼の旅

2019年4月4日（木）～4月11日（木）

小林昌子

ペトロ召命教会にて野外ミサに与かる。ガリラヤ湖からヤシの木を通して吹いてくる風が気持ち良く、少し離れた所からスペインの人達のミサの歌声も聞こえ、とても平和な時間であった。

ガリラヤ湖遊覧では「ガリラヤの風かおる丘で」「主は水辺に立った」を皆と大きな声で歌い、ペトロの思いに浸る。エリコに向かう途中は、糸杉とオリーブの並木道が続き、その後砂漠地帯に出る。途中ベドウィンとヤギの群れを見る。次に人工的に植えられた、なつめやしの群生地をバスは走り、エリコに到着。そして、いよいよエルサレムに入る。

ゲッセマネの園ではイエス様の時代からあったオリーブの古木があり、教会には祈りを捧げた岩の前に祭壇が作られていた。生誕教会のあるベツレヘムは、パレスチナ自治区にある為、検問所を通り商い壁沿いに走る。世界中から集まった人々であふれる中で、静かに列を作り待つ。運良く一時間半程で御誕生の場所に着く。洞窟の隅にて「あめのみつかい」を皆で歌い誕生の喜びを味わう。鶏鳴教会では地下の深く暗い牢獄に入る。庭に出るとイエス様が牢から出されてピラトの裁判に向かう為に歩かれた石畳の階段があった。私は言葉も無くそこに立ちつくした。その後、イエス様は十字架の道行きとなられた。

最後のミサの後インセン神父様より巡礼証明書を頂く、アンリ神父様から「本当の巡礼は日本に帰ってから始まります。」との言葉を頂く。未だ胸がいっぱいで消化されていませんがこれからの信仰生活に於いてイエス様と共に歩くとはどういう事なのかを考え、祈り歩んでいきたいとおもっている。帰国し十字架の道行きを今までよりももっと意味深く祈る事ができる様になったと感じた。そして夫と共に巡礼できた事を神様に感謝しています。